

令和3年度 全国学力・学習状況調査 横浜市の結果

令和3年5月27日に横浜市立小学校6年生（約2万8千人）、中学校3年生（約2万3千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果と児童生徒の意識に関する結果の概要をお知らせします。

◎ 各教科の調査結果から見る本市の状況

- ・調査結果においては、全国の平均正答率と比べ、高いか、同等の状況です。
- ・小学校の算数、中学校の数学において、全国の平均正答率に比べ、2ポイント高い状況が見られました。

【平均正答率（％）】

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
横浜市	65	72	65	59
全国との差	±0	+2	±0	+2
神奈川県	63	70	65	58
全国	65	70	65	57

※ 全国の平均正答率については、文部科学省の指示のもと整数値に直して表しています。

※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

◎ 各教科の調査結果から見て特徴のある設問

全国の平均正答率との差が4ポイント以上あった主な設問は、次のとおりです（ポイントは整数値）。

【小学校】

国語

- ・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」が4ポイント 高い。
- ・「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」が5ポイント 高い。
- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」が平均で4ポイント 低い。

算数

- ・「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」が5ポイント 高い。
- ・「データを二次元の表に分類整理することができる」が4ポイント 高い。

【中学校】

国語

- ・全国の平均正答率と比べ、おおむね同等の状況。

数学

- ・「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」が6ポイント 高い。
- ・「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる」が5ポイント 高い。
- ・「錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している」が4ポイント 高い。

◎ 児童生徒質問紙から見て特徴的だった結果

【新型コロナウイルス感染症拡大における臨時休校の影響】

- ・「臨時休校期間中に、勉強について不安を感じましたか」の質問に、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童生徒の割合が、全国と比べ、小学校は4ポイント 高く、中学校は1ポイント 高い。

【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する状況】

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、平成30年度と比べ、小学校で2ポイント 増加、中学校で9ポイント 増加。

お問合せ先

教育委員会事務局教育課程推進室長 山本 朝彦 Tel 045-671-3723